

令和 7 年度先導的大学改革推進委託事業
「海外大学に長期留学する者の
留学資金調達の現状に係る調査研究」
(概要)

令和 8 年 3 月
株式会社 リベルタス・コンサルティング

調査目的

海外大学に長期留学する者の中には、海外の大学等の提供する貸与奨学金や教育ローンを借り入れる者がいるが、こうした者が帰国した場合に、我が国よりも高い金利負担に加え、近年急速に進む円安も相まって、負担感が高まっているケースも生じている。こうした問題に適切に対応するため、海外大学に長期留学する者の経済状況や資金調達方法の実情、貸与奨学金や教育ローンの利用者の規模感等について調査研究を行い、実態を把握することにより、今後の施策立案の基礎資料とする。

調査方法

本事業では、以下の2調査を実施した。

①アンケート調査

海外大学(大学院、短期大学等の高等教育機関を含む)に長期留学している学生、または長期留学を経験した学生・社会人(過去10年程度まで)を対象としている。長期留学は、半年間以上の期間の留学とした。

【配布方法】

以下を経由してアンケート依頼状を配布。

- ・ トビタテ留学JAPAN参加学生
- ・ JAOS(海外留学協議会)会員団体のうち5団体
- ・ 日本学生支援機構「日本人学生留学状況調査」において日本人学生派遣数の多い大学のうち14大学

【回答方法】

Webアンケート(2025年9月19日～2025年11月28日)

【有効回答数】

875件

【分析にあたって】

回答者を、留学目的と留学期間により以下のように分類した。

分類	回答数(構成比)
学位取得	179 (20.5%)
学位取得以外(1年以上)	247 (28.2%)
学位取得以外(1年未満)	398 (45.5%)
不明	51 (5.8%)

※「学位取得」は、準学士学位の取得、学士学位の取得、修士学位の取得、博士学位の取得が含まれる。

※「学位取得以外」は、専門資格の取得、留学プログラムの修了(大学等の協定派遣含む)、単位取得、専門分野の学修・研究、語学習得、その他が含まれる。

②ヒアリング調査

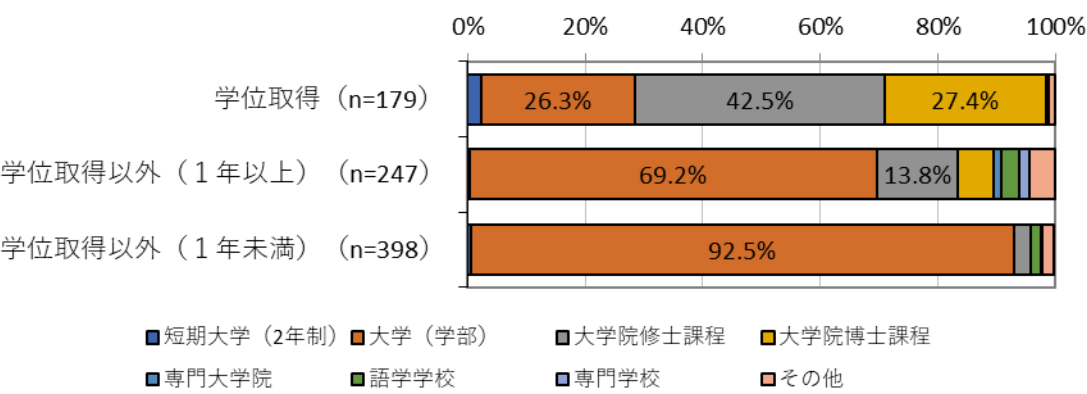
アンケート回答者のうち、以下の条件にあてはまる9名を対象に実施。

- ・ 留学期間が1年以上
- ・ 留学資金の出資者が「親のみ」は除外(親の出資がない方を中心に抽出)
- ・ 留学先の学校種、留学地域、現在の状況(留学中/社会人)についてバランスよく抽出。

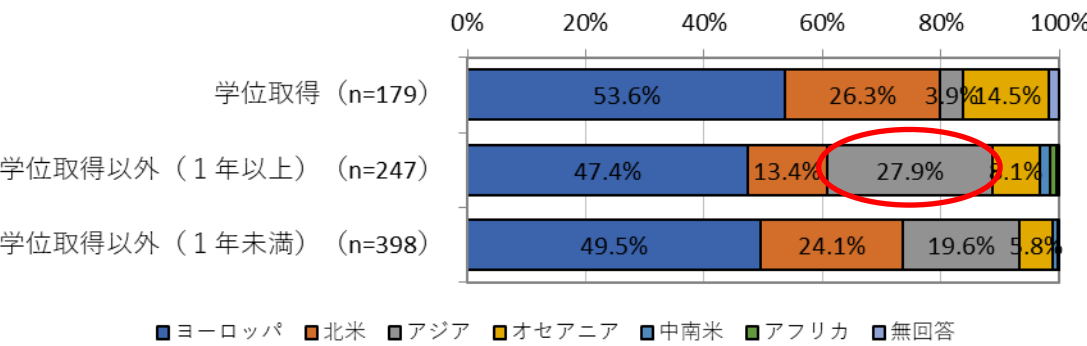
主な調査結果① 留学の状況

- 留学先の学校種は、『学位取得』は「大学院修士課程」が42.5%、「大学院博士課程」が27.4%、「大学(学部)」が26.3%。『学位取得以外』は1年以上では7割、1年未満では9割が「大学(学部)」。
- 留学先の地域は、『学位取得』は「ヨーロッパ」の割合がやや高めで、「アジア」の割合が低い。『学位取得以外(1年以上)』では「アジア」が27.9%と他と比べて割合が高い。
- 留学先決める際に重視したことについては、『学位取得』は他と比べて「学びに行く専門分野のレベル(78.8%)」「留学する学校や国に経済支援制度があること(43.0%)」「留学する大学の知名度(36.9%)」の割合が高い。

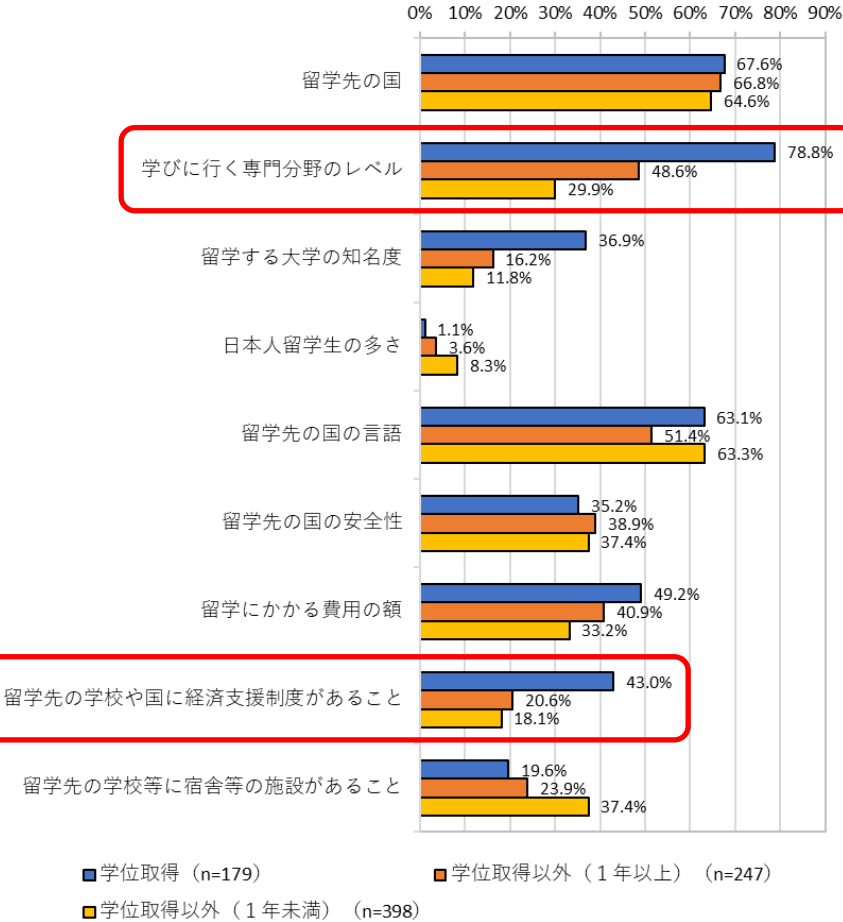
留学先の学校種別



留学先の地域



留学先を決める際に重視したこと(重視した割合)



主な調査結果② 留学費用

- 留学費用をみると、「住居・光熱費・生活費」の占める割合が高い。
『学位取得』は、「住居・光熱費・生活費」「授業料、その他の教育関連費用」が他と比べて高く、総費用がかかる。
- ひと月あたりの留学費用でみた場合でも、『学位取得』の費用は、学位取得以外の留学と比較して、ひと月あたり平均10万円程度高く、その差は「入学金、授業料、その他の教育関連費用」によるものだとわかる。
- 地域別のひと月あたりの留学費用では、北米、オセアニアが、ひと月あたり平均約40万円程度と高くなっている。
ヨーロッパは、「入学金、授業料、その他の教育関連費用」の分、北米、オセアニアより安い傾向にある。
アジアは、「入学金、授業料、その他の教育関連費用」「住居・光熱費・生活費、その他」のいずれの費用も他地域より安い。

留学総費用(目的・期間別)

	n	入学金	授業料、その他の教育関連費用	住居・光熱費・生活費	その他	合計
学位取得	168	43	537	626	113	1,319
学位取得以外（１年以上）	236	16	109	178	78	380
学位取得以外（１年未満）	380	13	74	134	81	302（万円）

ひと月あたりの費用(目的・期間別)

	n	入学金、授業料、その他の教育関連費用	住居・光熱費・生活費、その他	合計
学位取得等（１年以上）	168	18	20	38
学位取得以外（１年以上）	236	7	17	24
学位取得以外（１年未満）	380	9	21	29（万円）

ひと月あたりの費用(地域別)

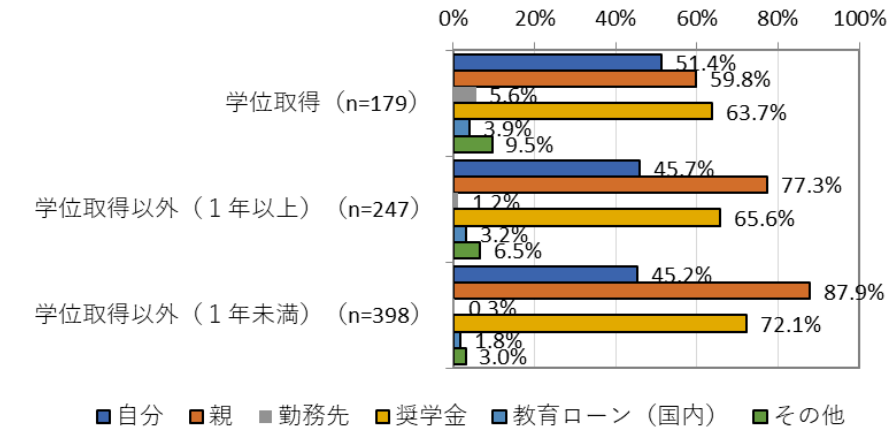
	n	入学金、授業料、その他の教育関連費用	住居・光熱費・生活費、その他	合計
ヨーロッパ	400	9	19	28
北米	175	15	23	39
アジア	150	6	13	19
オセアニア	68	17	24	41
中南米・アフリカ	10	4	16	21（万円）

※上記は、カテゴリ質問の回答を数値に換算し平均値を算出している。また、上記の各項目のいずれか1つでも無回答があった場合、集計対象からは除外している。

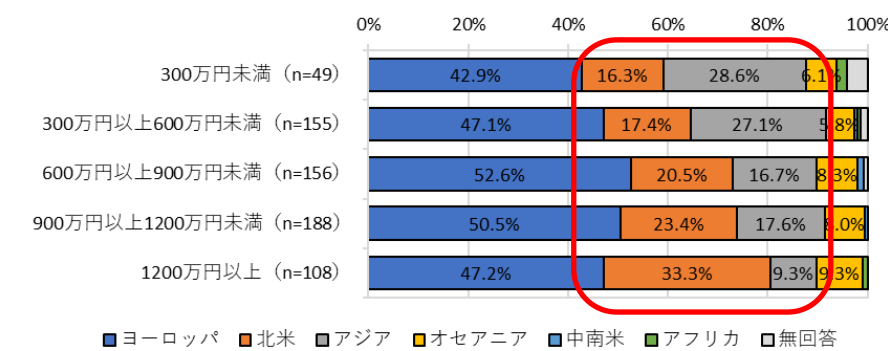
主な調査結果③ 留学費用の出資方法等

- 留学費用の出資者は、『学位取得』は「奨学金」「親」「自分」、『学位取得以外』は、「親」「奨学金」「自分」の割合が高い。
『学位取得』は、「親」の割合が59.8%と他に比べ低く、「自分」の割合が51.4%とやや高い。
- 家計所得別の留学地域をみると、家計所得が高い方が「北米」の割合が高くなる。一方で、「アジア」は家計所得が低い層で割合が高い。
- 留学資金の考えについては、「返済が不安だから、なるべく奨学金やローンは借りたくなかった」の割合が高い。
『学位取得』では、「海外留学のための奨学金を利用できる人数が少ない」、「奨学金やローンを借りるのであれば、海外留学はしない」割合が他と比べて高い。

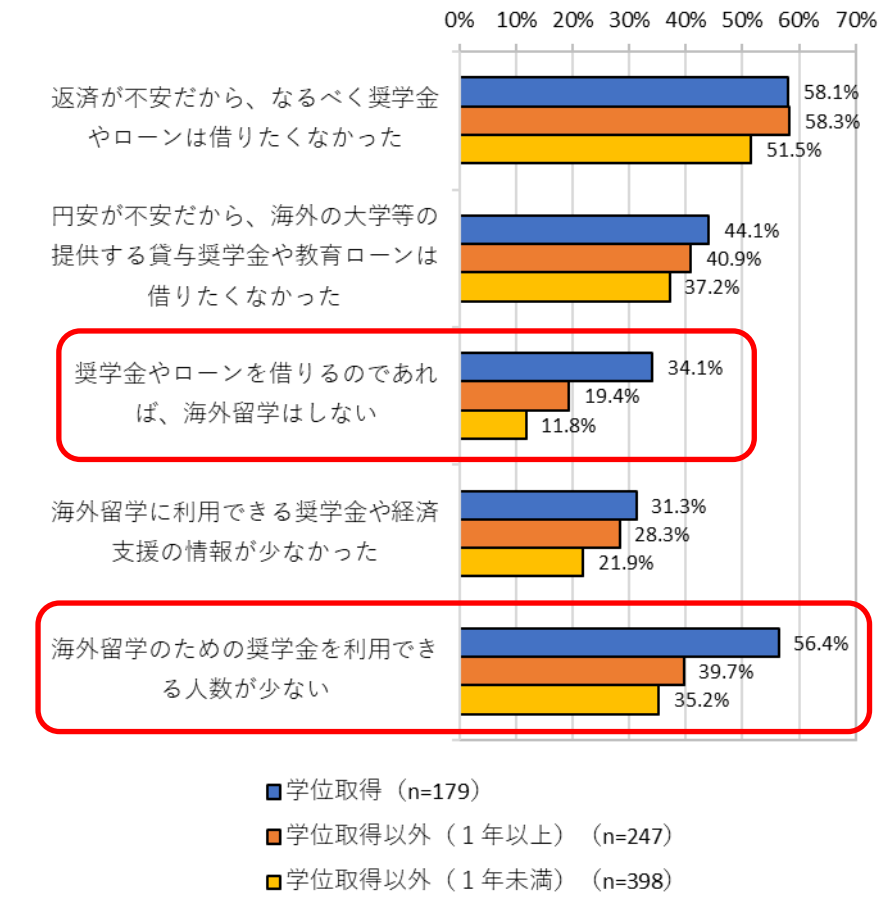
留学費用の出資方法



家計所得別の留学地域



奨学金・留学ローンに対する考え方(そう思う割合)



主な調査結果④ 留学における課題とあると望ましい支援等

・ アンケート、およびヒアリング結果から、留学における課題、及びあると望ましい支援等を整理した。

奨学金関連の課題、望ましい支援

- ①給付型奨学金の採用人数の拡大
 - 学位取得の留学、特に大学等での研究職を志望する留学者は、給付型奨学金を獲得することが長期留学に行くための前提となっている。給付型奨学金の採用人数を拡大が、長期留学者の拡大につながる可能性がある。
- ②低所得者層等への奨学金支給拡大
 - 一般の大学生の家計と比べ、長期留学をしている学生等の家計は、高所得に分布している。また、家計所得によって留学先の国・地域に差が生じている。
- ③修士以上の留学への支援拡大、大学等での研究職での就職を前提としない留学への支援拡大
 - 学部向けは「トビタテ！留学JAPAN」などが充実する一方で、修士以上、特に大学等での研究職での就職を前提としない留学への支援が限られているという意見があがった。
 - また、給付型奨学金では、学問分野での支援の偏りも指摘されている。
- ④為替等の影響に対する調整
 - 円安や世界的な物価上昇を背景に、為替の変動等に応じた奨学金の支給額の調整を望む意見が多く上がった。
- ⑤その他
 - 「受給の成績要件の見直し」「支援用途の拡大(研究費、留学準備金、家賃補助、渡航費、就職活動支援)」「募集時期の見直し、留学途中からの申込・金額拡大」といった意見があった。

奨学金以外の課題、望ましい支援

- ①留学の情報提供
 - 特に、大学等での研究職を志望する留学以外において、留学に関するまとまった情報の入手が難しいという意見が多くあげられた。公的機関が偏りのない情報を日本語で提供して欲しい、という要望がある。
- ②長期海外留学のロールモデル提示
 - 留学の決定や情報収集には、「留学経験者など長期留学のロールモデルとなる人の存在」が重要。1)中学・高校と早い段階から留学に関する生の声に接する機会を増やすことで長期留学への意識を醸成できる、2)留学準備等の段階で長期留学経験者から具体的な経験談を聞く機会を得ることで具体的な留学決定・準備につなげることができる。
- ③留学のタイムスケジュールを念頭においた就職支援
 - 「留学中に参加しやすい就活イベントやインターンシップ(現地開催、オンライン)」「留学帰国者向けの就活イベントや情報提供」「留学前段階での情報提供」などの支援への要望がある。
- ④長期留学者のアカデミア以外の日本でのキャリアパスの開拓
 - 留学経験が活きる就職環境がない、海外留学への評価がされないことから、海外留学経験者が、日本以外での就職を優先するケースも多い。長期海外留学者が、アカデミア分野以外においても日本の社会の多様な場で活躍できるように、海外留学者の活躍状況等を広く認知させ、長期留学者のキャリアパスを開拓していく必要がある。
- ⑤その他
 - 「留学中の現地サポート」「大学間の留学支援に関する格差是正」といった意見があった。